

# 特集 ふくつ平成史

福岡市と津屋崎町が合併し、福津市が誕生したのも平成の出来事です。今回は福津市が歩んできた平成30年間の主な出来事を振り返ります。



平成元年

津屋崎町民体育館（現・津屋崎中学校体育館）が開館

平成2年

津屋崎町でとびうめ国体ウエトリフティング競技大会を開催①

平成4年

福岡町立図書館（現・福津市立図書館）が開館②  
福岡町総合運動公園「なまずの郷」が開園

平成5年

県道199号北九州福岡線が国道495号に昇格  
津屋崎文化会館「カメリアホール」が開館

平成6年

久末総合公園「みずがめの郷」が開園  
「津屋崎千軒民俗館藍の家」の保存が決定③

大渴水による夜間8時間の断水を実施

平成8年

「あんずの里ふれあいの館」が開館  
津屋崎町で公共下水道事業に着手

平成9年

「ふれあい広場ふくま」が開館④

平成10年

本木川自然公園「ほたるの里」が開園

平成11年

福岡町消防団が日本消防協会の最高栄誉「まとい」を受章  
福岡町と津屋崎町で不燃ごみの分別収集を開始

平成12年

福岡町健康福祉総合センター「ふくとぴあ」が開館  
「福岡漁港海浜公園」が開園  
福岡町公式ホームページを開設

平成13年

津屋崎町総合福祉会館（潮湯の里夕陽館）が開館  
福岡町ユニバーサルデザイン計画を策定  
観光花園の愛称を「西郷川花園」に決定

平成14年

校区外からの通学を特例的に認める小規模校特別認可制度を勝浦小学校で開始  
ふくとぴあに「子育て支援センター」が開館  
津屋崎町公式ホームページを開設  
福岡町で男女がともに歩むまちづくり基本条例を制定

平成15年

津屋崎浄化センターを供用開始  
津屋崎町に地域環境保全や公園整備など環境整備の業務と、うみがめ保護と広報啓発を担う、うみがめ課が誕生

平成16年

津屋崎町ウミガメ保護条例を制定  
広報ふくまが全国広報コンクールで日本一に  
第1回福岡町・津屋崎町合併協議会を開催

平成17年

古賀市外1市4町じん芥処理組合が玄界環境組合に名称変更  
福岡県東土地区画整理事業などの都市計画が決定⑤  
福岡町が男女共同参画都市を宣言  
「ボランティアハウス・ふくま」が開所  
福岡町で郷育カレッジを開校

平成17年

「津屋崎小学校南校舎」と「在自唐坊跡展示館」が完成  
「宮司コミュニティセンター」が開館  
総務大臣の告示によって、福津市の誕生が正式に決定  
津屋崎町で第15回日本ウミガメ会議が開催  
閉町式を開催⑦

平成17年

閉町式を開催⑦



水不足の深刻さを伝えた広報ふくま平成6年9月号



平成に入り最初の号となった広報つやざき平成元年2月号

平成時代と藍の家のことを聞いてみた

## INTERVIEW 藍の家を次の時代へ — 藍の家保存会

藍の家は明治34年に建てられた染め物屋の建物でした。保存に向けた活動をしてきた当時も今も変わっていないのは、地域の人が気軽に集まって話ができる憩いの場であることです。西鉄宮地岳線があった頃は、福岡市から電車を乗り継いで来た人もいました。市外や県外でも藍の家のことを知っている人が多くいて、驚くと同時に誇らしく思います。振り返れば、先人たちの多くの努力と、さまざまな人とのつながりがあり、今日、藍の家があると感じています。私たちはこれを子や孫につないでいくことが使命です。



▲藍の家を運営している皆さん

昔から福岡駅を利用している人に聞いてみた

## 福岡駅は生活の一部 — 山本武利さん

私は北九州市の会社に勤めていたので、毎日福岡駅を利用していました。昭和50年代頃までは古賀駅を発車した列車の汽笛の音が聞こえるくらい、駅周辺には建物がなく、田園風景が広がっていました。平成22年に新駅舎になるまで、改札と乗り場がつながっていたので、電車で走って乗り込んだこともありました。昔は駅前には立ち飲み屋が多くあり、夜は仕事帰りの人でにぎわっていました。平成6年に退職してからは、趣味のビデオとカメラで街中を撮影して回っています。駅舎が変わる前後の映像を見返すと、当時を思い出します。



▲みやじ口に残る旧駅舎の一部を見る山本さん

▲広報ふくま最終号の平成17年1月号

▶ 広報つやざき最終号の平成17年1月号

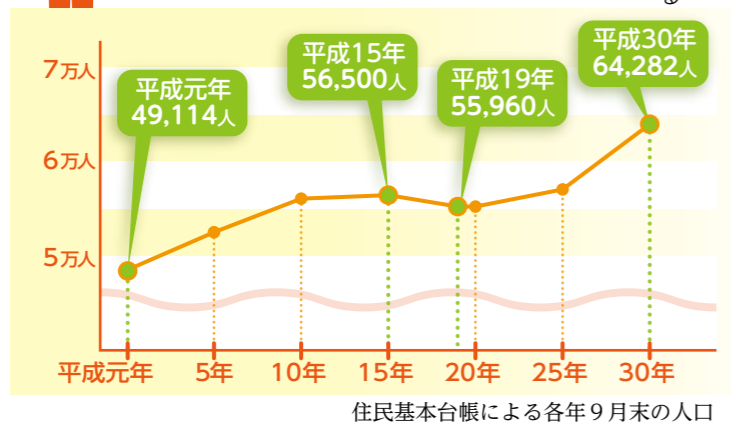
# 福津市は市制15周年

たくさんのお出来事があった平成時代。市は来年1月で誕生してから15年を迎えます。



- 平成17年 福津市が誕生①  
津屋崎古墳群が国指定史跡になる  
福岡県西方沖地震が発生。市内では震度5弱を観測  
「福津市魚センター」が開館
- 平成19年 西鉄宮地岳線の西鉄新宮と津屋崎の間が部分廃止②  
宗像地区事務組合が誕生  
郷づくり推進事業を開始  
福岡県東土地区画整理事業で本格的な造成工事に着手  
福津三十六景を発表
- 平成20年 「福間浄化センター」が供用開始  
ふくつミニバスが運行開始
- 平成21年 福津市まちおこしセンター「津屋崎千軒なごみ」が開館
- 平成22年 「JR福間駅」の新駅舎が開業③  
「エンゼルスポット」が開館
- 平成23年 「津屋崎千軒古民家」で初代運営者が営業スタート  
JR福間駅の自由通路が開通。市行政・観光情報ステーション「ふくくる」が開館  
ふくつの鯛茶づけフェアを開始
- 平成24年 「イオンモール福津」がグランドオープン  
福津暮らしの旅を開始  
福津市児童センター「FUCSTA」が開館  
大雨で西郷川の護岸が崩落。道路が長期間通行止めに④
- 平成25年 福岡県東土地区画整理事業が完了。翌日から日蔭野地区が誕生  
津屋崎祇園山笠が発足300年、復活40周年を迎える
- 平成26年 市公式フェイスブックを開設  
市制10周年記念式典を開催⑤  
市の木を「松」、市の花を「あなずの花」「菜の花」に決定  
人口が6万人に到達
- 平成27年 宮地嶽神社の参道が「光の道」として注目される  
熊本地震が発生。市内では震度4を観測  
「津屋崎行政センター」が開所  
庁舎を福岡庁舎に統合
- 平成28年 広報ふくつが全国広報コンクールで日本一になる  
津屋崎庁舎を改装し「カメラアステージ」が開館  
「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群がユネスコ世界遺産一覧表に記載される⑥
- 平成29年 「ふくつボランティアセンター」が開所  
平成30年7月豪雨が発生。新原・奴山古墳群の一部が崩れるなど被害を受ける  
地域商社「福津いざい」を設立  
古賀市と共同で東京2020オリンピックのルーマニア柔道チーム事前キャンプ基本合意書に調印⑦
- 平成30年 平成時代が終わる  
新元号時代が始まる
- 平成31年 新元号元年
- 新元号2年 市政15周年

## 平成の人口変化



31歳の人に思い出を聞いてみた

### 日常の景色が有名になった

— 山田竜馬さん

昨年で31歳になりました。学生時代は、友達と大峰山で遊んだり、海で釣りをしたりしました。小学校の授業では、世界遺産に登録される前の新原・奴山古墳群に行ったこともありました。ウミガメの産卵した場所を見に行ったのも思い出です。これまで普通に過ごしてきた場所が、これほど有名になるとは思いませんでした。私は今、市内でスポーツバーと、3月に開店したばかりの飲食店を営んでいます。これからは自分よりも若い人に、自営業を始めるきっかけを与えられるような人になりたいです。



▲市商工会青年部に所属する山田さん

平成29年の世界遺産登録のことを聞いてみた

### 世界遺産が身近になって

— 増田美佐子さん

新原・奴山古墳群が「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群としてユネスコ世界文化遺産に登録され、名の知れた場所になりました。私は古墳群で「ふくつ古墳馬車」の運行や「古墳まつり」や「お馬さん広場」などのイベントを定期的に開いています。登録から1年が過ぎ、他の構成資産との連携などまだまだ課題があると思いますが、私にできることは、この場所を知ってもらおうきっかけ作りです。福津にあるこの世界の宝を身近に感じてもらえるように、これからも馬車やイベントを通して、人が集まって楽しめる場を作っていきたいと思っています。



▲増田さんと馬車を引っ張るオーロくん



◀ 広報ふくつ創刊号の平成17年1月24日号